



GAP 理解度テスト

農林水産省

GAP 理解度テスト 問題用紙

食品安全

問1：次のうち、食品安全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：食品衛生法	サ：収穫物搬送の動線
イ：圃場の面積	シ：集出荷施設の照明器具
ウ：農薬の種類	ス：包装資材の材質
エ：農薬の使用量	セ：機械の製造元
オ：農薬の価格	ソ：梱包作業時の服装
カ：農薬の散布方法	タ：廃棄物量
キ：農業用水の水源	チ：ペット・野生動物の侵入経路
ク：水道料金	ツ：トイレの衛生環境
ケ：水やりの回数	テ：作業者の休憩場所の衛生環境
コ：燃料の使用量	ト：日の出・日の入りの時間

食品安全

問2：食品安全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれを1つ選んでください。

【解説文章】

食品安全に関するリスクとして、例えば、作業者等を原因とした農産物を汚染するリスクが考えられる。

具体例としては、①生鮮野菜の梱包時に手に付着していた病原菌が野菜を汚染する。②感染症に罹患していた作業者が野菜の出荷作業に従事したことにより、作業者が保菌していた病原菌が野菜を汚染する。③農場の見学者が不用意に野菜に触ったことにより見学者が保菌していた病原菌が野菜を汚染する。などが考えられる。

この場合、例えば、①については作業時に手袋の着用を義務付ける。②については、(A) に体温の測定等の健康管理を行い、感染の疑いがある場合はそもそも作業に従事させない。③については、(B) などに見学者向けのルールを掲示し、その遵守を徹底させるなどの対処方法が考えられる。

なお、リスクの対処方法を考えた場合、その対処方法にリスクがないかも併せて検討する必要がある。例えば、①の場合、手袋が (C) だったり、有害な成分が含まれている素材のものだったりした場合には、手袋を着用してもリスクの (D) にはつながらない。衛生的で、かつ有害な成分が含まれていない（食品に接触することを意図したもの）手袋を着用して作業することで、初めて、リスクの (D) につながる事となる。

このように、常にリスクを検討し、対処し、対処結果を踏まえ更なる改善を検討する、持続的な改善活動こそが、GAP の要である。

＜選択肢＞

ア：駐車場の入口	ク：二重	ソ：食後
イ：増大	ケ：可視化	タ：不衛生
ウ：高価	コ：農場の入口	チ：入浴前
エ：入浴後	サ：自宅の玄関	ツ：就寝前
オ：低減	シ：食前	テ：作業前
カ：車のドア	ス：安価	ト：周知
キ：起床後	セ：作業後	

食品安全

問3：以下の事例において、想定される食品安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：出入口が1つしかないきゅうり出荷調整施設での作業】



食品安全

問4：以下の事例において、想定される食品安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

作業員Aは、体調が悪く原因不明の嘔吐が続いていたが、繁忙期なのでうがい・手洗いをよくして出荷作業に向かった。出荷調整施設では、毎回作業前に掃除をしているが、ネズミの糞や昆虫の死骸と思われる物がいつも落ちていた。施設の照明が一部切れて普段より暗くなっていたので、繁忙期が終わったら新しいものと交換し、万が一に破損しても破片が飛散しないようにフィルムで保護しようと考えている。作業中はマスクと作物や人体に悪影響の無い使い捨ての手袋をしているが、作業台付近で飲食している作業員もいた。

環境保全

問5：次のうち、環境保全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：圃場の面積

ケ：湿度

イ：土づくり

コ：廃棄物の分別

ウ：施肥設計

サ：作業者の服装

エ：省エネルギー化

シ：燃料の保管場所と保管方法

オ：農薬の散布方法

ス：農薬散布機の洗浄場所

カ：廃棄物の処分方法

セ：作業者の昼食場所

キ：圃場周辺に分布する生物の種類及び個体数

ソ：堆肥置き場

ク：IPM

タ：農機具保管庫

環境保全

問6：環境保全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文書1】

環境保全に関するリスクには、間接的なものと直接的なものがある。特に間接的なものは、時間をかけて環境に悪影響を与える場合があり、農業と環境保全は切り離せない関係にある。

例えば、作物の収穫量を上げるためには、肥料等を施用し作物に十分な栄養分を与える必要があるが、必要以上に施用すると作物が窒素やリンなどの栄養分を吸収しきれず（ A ）に残り、地下水や河川に流れ込み環境に悪影響を引き起こしかねない。

この場合、あらかじめ土壌診断を行い、土の状況を把握した上で、栽培する作物に応じた適切な（ B ）を行うことが重要である。

このように、間接的なリスクは、影響がすぐには発現しないものの、長期的な視野に立てば、広範囲に影響を及ぼしかねず、適正なリスク管理が必要となる。

【解説文章2】

一方、直接的なリスクとしては、散布した農薬が周辺住民の住居まで飛散し洗濯物等を（ C ）するなどが挙げられる。

この場合、（果樹の場合）スピードスプレイヤーのノズルを飛散防止対策が施されたものに取り替える、事前に農薬散布の日時を周辺住民に連絡し、当該時間帯の洗濯の外干しを控える等の対策をお願いするなどの対処方法が考えられる。

また、もっと広範囲な対策として、IPM（総合的病害虫管理）の考えのもと、農薬散布以外の病害虫対策（（ D ）の導入、土着天敵の活用等）を講じることで、原因の根幹である、農薬の使用量、使用回数を削減するという方法も考えられる。

このように、思考範囲を狭めず、農業全体の中で対策を考え、実行に移すことが、GAPでは重要と言える。

<選択肢>

ア：漂白

カ：花卉

サ：祈念式

イ：抵抗性品種

キ：着色

シ：人体

ウ：空気中

ク：種まき

ス：汚染

エ：土づくり

ケ：土壌

セ：種子の選定

オ：ガスバーナー

コ：乾燥

ソ：栽培計画

環境保全

問 7：以下の事例において、想定される環境保全に係る危害要因を具体的に 2 つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：農場隣接地の風景】



環境保全

問 8：以下の事例において、想定される環境保全に係る危害要因を具体的に 2 つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

作物の生育が例年より悪いと思ったので、昨期と同じ肥料を昨期より多めに施肥した。ついでに昨期と同じ農薬を昨期と同量散布した。風下の住宅には、散布する直前にこれから散布することを伝えていた。余った農薬の希釈液は最寄りの排水溝に流し、肥料の空袋は除草した草とともに圃場の隅で焼却した。

労働安全

問9：次のうち、労働安全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

＜選択肢＞

ア：道路交通法

サ：トラクターの安全フレーム

イ：作業時の服装

シ：軽トラの台数

ウ：作業者の体調

ス：健康診断の実施

エ：作業者の趣味

セ：危険箇所の表示

オ：作業者の熟練度

ソ：救急箱の有無

カ：作業者の性格

タ：救急箱の製造元

キ：機械の点検頻度

チ：労災保険への加入

ク：機械の耐用年数

ツ：作業者の昼食場所の環境

ケ：機械の価格

テ：高所作業

コ：機械の使用条件

労働安全

問 10：労働安全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

労働安全に関するリスクとして、例えば、農作業機械を起因とした農作業事故のリスクが考えられる。

具体例としては、①急な斜面を走行したこと等によりトラクターが転倒した際に、トラクターの安全フレームが外されていたことによる事故。②機械が整備不良で誤作動を起こしたことによる事故。③機械に生じた詰まりの解消を適切な手順で行わなかったことによる事故。などが考えられる。

この場合、①については、トラクターの安全フレームは邪魔だと感じても作業者の判断で外さない。もともと安全フレームがない車種であれば、(A) などについてあらかじめルールを定める。②については、機械の (B) や使用開始前の点検を着実に実施、③については、(C) を熟読し正しい手順で行うなどの対処方法が考えられる。

なお、対策の理由を理解せず、また、作業者が手間だと感じてしまうと取組が定着しないため、例えば、①については、なぜトラクターに安全フレームがあるのか等の安全に関する講習会を開催する、②③について、(D) の近くに定期点検や発生頻度の高いトラブルへの対処方法を掲示しておき、作業者が作業前に簡単に内容を確認できるようにしておくなどが考えられる。

このように、単に対策を設けるだけでなく、まず、対策の必要性を作業者に理解してもらうとともに、対策を作業者に負担と感じさせない工夫をこらすことが、GAP の取組を継続していくために重要と言える。

< 選択肢 >

ア：機械の保管場所

カ：耐久性

サ：事故防止の祈願

イ：ロコミ

キ：寝室

シ：転倒時の対策

ウ：事故時の覚悟

ク：走行可能な範囲

ス：定期点検

エ：デザイン

ケ：取扱説明書

セ：虫の知らせがあった場所

オ：限界性能

コ：休憩所

ソ：パンフレット

労働安全

問 11：以下の事例において、想定される労働安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：圃場周囲の草刈り作業】

**労働安全**

問 12：以下の事例において、想定される労働安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は、次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

刈り払い機で除草作業を行っている従業員 A に、これから農薬散布を始めることを伝えるために後ろから声をかけた。従業員 A は農薬散布を手伝うために刈り払い機のエンジンを切らずに一旦その場に置いた。農薬を散布するときはいつも革手袋と防護マスクをつけているが、作業中の気温が高くなってきたので、腕まくりをして散布した。散布後にも他の作業が多く残っていたので、従業員 B とともに休憩せずに、農機具・農業機械の整備を始めた。従業員 B は先週から雇用したばかりだが、本人の希望が強かったので、農作業安全の責任者とした。従業員 B が農機具の点検をしたところ、一部の農機具が見つからなかったり、一部が故障した農業機械があったりしたが、お金もなかったのものでそのままにした。

人権保護

問 13: 次のうち、人権保護に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

＜選択肢＞

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ア：労働条件の通知 | キ：住み込み従業員の住居環境 |
| イ：近隣のレジャースポットの紹介 | ク：従業員の私物 |
| ウ：マニュアル・標示等に用いる言語 | ケ：従業員の国籍・宗教 |
| エ：従業員の身長・体重 | コ：従業員の余暇の過ごし方 |
| オ：有給休暇制度 | サ：従業員が身につけている言語 |
| カ：標準勤務時間の設定 | |

人権保護

問 14: 人権保護について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

近年、働き方改革が提唱される中、農業においても、雇用環境等を見直す動き、もっと広義に言えば、人権保護を意識する動きが強まっている。

人権保護の第一歩は、1日の勤務時間や、雇用期間、福利厚生などの雇用条件を明確にし、(A)の雇用時に(B)で通知することである。(B)で通知されることで、雇用条件が明文化され、雇用者の拠り所ともなる。労働時間等の一部の例外はあるものの、基本的には農業に従事する(A)にも、労働基準法が適用されることを忘れてはならない。

次に、使用者と(A)との間で、労働条件や労働環境、労働安全等について定期的にコミュニケーションを図ることは、(A)の意見を(C)し、より良い職場環境の構築にも必要な要素である。

また、作業を行う者に配慮した農場環境の整備が上げられる。例えば、近年、農業にも外国人技能実習生などの外国人労働者が増加の傾向にあるが、母国語が日本語ではない者の農作業に支障が生じないように、標識やマニュアルについて、①複数言語を併記する、②(D)などの配慮が必要となる。当然のことながら、国籍や宗教、性別などで差別してはならない。

このように、人権にも配慮して農業を行うことが、農業への人材定着につながるものであり、GAPが求める持続可能性の確保につながるものである。

<選択肢>

ア：口頭	カ：周辺住民	サ：感覚で指導する
イ：吹聴	キ：反映	シ：労働者
ウ：電話	ク：従事させない	ス：イラストで解説する
エ：無視	ケ：自主性に任せる	セ：雇用主
オ：書面	コ：盗用	ソ：フィーリング

農場経営管理

問 15: 次のうち、農場経営管理に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：責任者の配置

ケ：作業者の生活習慣の把握

イ：ブログの開設

コ：観光農園化

ウ：マニュアルの作成

サ：通信販売

エ：栽培計画の策定

シ：クレーム対応の記録

オ：ツイッターへの投稿

ス：マニュアルの見直し

カ：教育訓練の実施

セ：近隣のレジャースポットの場所

キ：作物の仕様の明確化

ソ：近隣の小売店の場所

ク：クレーム対応の手順

タ：PDCA サイクル

農場経営管理

問 16：農場経営管理について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

農場経営管理は、「農業者」を「農業経営者」とするために欠かせない GAP の取組である。

まず、農場運営の方針と目的を定めることが必要である。それを従業員に周知することにより、経営者と従業員が共通した方針・目的に向かって、業務に取り組めるようになる。

次に、(A) を配置し、農場内の体制を確立することである。農場管理（農薬管理、施肥管理等）ごとに (A) を配置することで、農場管理における責任の所在が明確になるとともに、経営者以外の従業員を (A) に任命することで、当該従業員に裁量が与えられ、自主性の向上が期待される。

また、農場の具体的な運営ルールや、生産工程ごとに想定されるリスクとその対処方法を整理し、農場管理マニュアルにまとめることである。マニュアルにすることで、ルールやリスクが見える化でき、農場内で共有を図れるとともに、マニュアルに基づく農業経営を行うことで、従業員ごとの対応のばらつきを少なくし、(B) な対応が可能となる。

さらに、従業員が農場で支障なく働けるよう、定期的な (C) を実施することも重要である。農場管理マニュアルに基づく教育に加えて、安全講習・救命講習の受講、新ルールを設けた場合の周知徹底等を定期的に行うことで、従業員は常に最新の知識を得た状態で、業務を遂行できるようになる。

なお、農場管理マニュアルや (C) の内容等については、定期的に (D) を行い、常に実情に応じた見直しを行うことが重要である。

このように、農産物の生産のみならず、農業における経営の観点を意識することが、GAP の取組を通じた経営改善の第一歩である。

＜選択肢＞

ア：評論会

カ：レクリエーション

サ：責任者

イ：アドバイザー

キ：自己点検

シ：電話

ウ：散発的

ク：情報発信

ス：朝礼

エ：反省会

ケ：評論家

セ：教育訓練

オ：組織的

コ：応急措置的

ソ：廃止

その他

問 17：時系列に沿って並べている次に掲げる項目のうち、GAP でカバーする範囲に含まれないものを全て選んでください。

＜選択肢＞

- | | | |
|--------------------------|--------|--------|
| ア：運営計画策定工程（運営方針の策定等） | エ：栽培工程 | キ：加工工程 |
| イ：運営準備工程（栽培作物の決定、従業員の雇用） | オ：収穫工程 | ク：宣伝工程 |
| ウ：調達工程（種子、農業資材等の購入） | カ：出荷工程 | ケ：販売工程 |

その他

問 18：次に掲げる項目のうち、GAP の考え方とそぐわないものを全て選んでください。

＜選択肢＞

- ア：栽培計画に基づき栽培品種を変更した
- イ：農薬の種類を作業員の好みで勝手に変更した
- ウ：GAP に取り組んでいることを、GAP 認証を取得して取引相手（小売業者）に示した
- エ：出荷調製（調整）作業をしながら喫煙した
- オ：半袖で農薬を散布した
- カ：草刈り前に石拾いをした
- キ：廃棄物を全て焼却処分した
- ク：過去2年間、残留農薬が検出されなかったため、もう大丈夫だろうと考え、残留農薬検査を行うことを止めた
- ケ：農薬を散布する前に周辺の住民に周知した

その他

問 19 : GAP の考え方と照らし合わせ、GAP の取組のゴールとして最も適切なものを 1 つ選んでください。

＜選択肢＞

- ア：農場の運営体制の中で農場管理ごとの責任者を決めた時
- イ：農場内を整理整頓した時
- ウ：農業生産活動に関するリスクと対策を一通り整理した時
- エ：GAP 認証を取得した時
- オ：GAP 認証を更新した時
- カ：GAP の取組を 10 年間継続した時
- キ：GAP の取組にゴールはない

その他

問 20 : GAP に取り組むに当たっては、農場内の整理整頓及び生産履歴（農薬の散布記録、栽培記録等）の記帳が着目されるが、これらの取組が必要となる理由として適当と考えられるものを全て選んでください。

＜選択肢①：農場内の整理整頓＞

- ア：動線が確保され、交差汚染のリスク低減につながる
- イ：資材の現物確認が容易になり、不良在庫の削減につながる
- ウ：片付けしたという自己満足に浸ることができる
- エ：置き場所が明確になり、紛失防止につながる
- オ：資材倒壊や資材との接触による転倒等の事故の防止につながる
- カ：適切な場所に資材を置くことで、劣化や損傷を最小限に抑えることができる。
- キ：掃除がしやすくなり、倉庫や施設を衛生的に保ちやすくなる
- ク：売上げが増える

＜選択肢②：生産履歴（農薬の散布記録、栽培記録等）の記帳＞

- ア：出荷した農産物の栽培から出荷までの経過を追跡できる
- イ：記帳したことを周囲に自慢できる
- ウ：過去の生産実績を踏まえた栽培計画を立案できる
- エ：過去の記録を踏まえた資材購入・使用計画を立案できる
- オ：記帳したデータを基に作目ごとの生産量等を客観的に比較できる
- カ：農場の資産価値が上がる
- キ：使用された農薬の種類や量、収穫時期等の作物の履歴を第三者に示すことができる
- ク：生産履歴をまとめたものを本として出版できるようになる

問 21 : GAP 認証について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を書き選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文書】

農林水産省では、GAPを「GAPをする（農業者がGAPに取り組むこと）」と「GAP認証をとる（農業者がGAP認証を取得すること）」に分けて推進しており、「GAP認証をとる」については（ A ）としている。

GAP認証とは、農業者が行うGAPの取組を第3者の審査機関が確認し、客観的に証明する民間の認証制度で、日本では主にGLOBALG.A.P.、（ B ）及びJGAPの3種類が普及している。

GLOBALG.A.P.は欧州発祥、（ B ）及びJGAPは日本発祥、GLOBALG.A.P.と（ B ）は、GFSI（世界食品安全イニシアティブ）※の承認規格であるなどの違いがあるが、この3種類は、いずれも食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野に関する取組内容を含んだ（ C ）である。

これらのGAP認証の取得・継続には、定期的（1年に1回）に審査を受ける必要があり、その都度、審査費用の負担が発生する。費用負担を避けることはできないが、GAP認証には、個人で取得する個別認証とJAの部会単位等で取得する（ D ）認証があり、（ D ）認証であれば、所属する農業者数が多いほど1人あたりの負担を軽減できる。これは、（ D ）認証では、（ D ）の事務局が定期的に所属する農業者の取組状況を内部監査するため、審査会社が行う農場の審査が抽出審査になるからである。

なお、どのGAP認証をいつ取得するかは、（ A ）による。例えば、流通業者などの取引先からGAP認証取得の要請があった場合には、取引先が指定するGAP認証を取得すればいい。

このように、GAPに取り組む者が必ず認証を取得する必要があるわけではないが、HACCPの義務化等もあって、GAP認証を求める動きが広がる中、必要となった時に速やかにGAP認証を取得できるよう、常日頃から（ C ）に取り組んでいることが重要である。

※GFSI（世界食品安全イニシアティブ）とは

正式名称はThe Global Food Safety Initiative。カーギルをはじめとした世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

<選択肢>

ア：Canada GAP	カ：補助金の支援水準	サ：政府の判断
イ：寄り合い	キ：完全無欠なGAP	シ：SQF
ウ：農業者の経営判断	ク：部会	ス：団体
エ：JA公認のGAP	ケ：JAからの指示	セ：国際水準のGAP
オ：都道府県GAP	コ：ASIAGAP	ソ：組織

GAP理解度テスト 回答用紙

【食品安全】

問1 意識しないといけないものについて、選択肢の記号で回答すること

--

問2 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

問3 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

問4 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

【環境保全】

問5 意識しないといけないものについて、選択肢の記号で回答すること

--

問6 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

問7 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

問8 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

【労働安全】

問9 意識しないといけないものについて、選択肢の記号で回答すること

--

問10 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

問11 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

問12 回答を次の形式で記述すること

(1)		によって		おそれがある。
(2)		によって		おそれがある。

【人権保護】

問13 意識しないといけないものについて、選択肢の記号で回答すること

--

問14 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

【農場経営管理】

問15 意識しないといけないものについて、選択肢の記号で回答すること

--

問16 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

【その他】

問17 カバーする範囲に含まれないものについて、 選択肢の記号で回答すること

--

問18 GAPの考え方とそぐわないものについて、 選択肢の記号で回答すること

--

問19 選択肢の記号で回答すること

--	--

問20 適当と考えられるものを、 選択肢の記号で回答すること

農場の整理整頓		生産履歴の記帳	
---------	--	---------	--

問21 適切な文言を、選択肢の記号で回答すること

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

以上になります。お疲れ様でした。

GAP 理解度テスト 回答例

食品安全

問1：次のうち、食品安全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：食品衛生法	サ：収穫物搬送の動線
イ：圃場の面積	シ：集出荷施設の照明器具
ウ：農薬の種類	ス：包装資材の材質
エ：農薬の使用量	セ：機械の製造元
オ：農薬の価格	ソ：梱包作業時の服装
カ：農薬の散布方法	タ：廃棄物量
キ：農業用水の水源	チ：ペット・野生動物の侵入経路
ク：水道料金	ツ：トイレの衛生環境
ケ：水やりの回数	テ：作業者の休憩場所の衛生環境
コ：燃料の使用量	ト：日の出・日の入りの時間

<回答例>

該当するもの：食品衛生法（ア）、農薬の種類（ウ）、農薬の使用量（エ）、農薬の散布方法（カ）、農業用水の水源（キ）、収穫物搬送の動線（サ）、集出荷施設の照明器具（シ）、梱包資材の材質（ス）、梱包作業時の服装（ソ）、ペット・野生動物の侵入経路（チ）、トイレの衛生環境（ツ）、作業者の休憩場所の衛生環境（テ）

該当しないもの：圃場の面積（イ）、農薬の価格（オ）、水道料金（ク）、水やりの回数（ケ）、燃料の使用量（コ）、機械の製造元（セ）、廃棄物量（タ）、日の出・日の入りの時間（ト）

食品安全

問2：食品安全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれを1つ選んでください。

【解説文章】

食品安全に関するリスクとして、例えば、作業者等を原因とした農産物を汚染するリスクが考えられる。

具体例としては、①生鮮野菜の梱包時に手に付着していた病原菌が野菜を汚染する。②感染症に罹患していた作業者が野菜の出荷作業に従事したことにより、作業者が保菌していた病原菌が野菜を汚染する。③農場の見学者が不用意に野菜を触ったことにより見学者が保菌していた病原菌が野菜を汚染する。などが考えられる。

この場合、例えば、①については作業時に手袋の着用を義務付ける。②については、(A) に体温の測定等の健康管理を行い、感染の疑いがある場合はそもそも作業に従事させない。③については、(B) などに見学者向けのルールを掲示し、その遵守を徹底させるなどの対処方法が考えられる。

なお、リスクの対処方法を考えた場合、その対処方法にリスクがないかも併せて検討する必要がある。例えば、①の場合、手袋が (C) だったり、有害な成分が含まれている素材のものだったりした場合には、手袋を着用してもリスクの (D) にはつながらない。衛生的で、かつ有害な成分が含まれていない（食品に接触することを意図したもの）手袋を着用して作業することで、初めて、リスクの (D) につながる事となる。

このように、常にリスクを検討し、対処し、対処結果を踏まえ更なる改善を検討する、持続的な改善活動こそが、GAP の要である。

<選択肢>

ア：駐車場の入口	ク：二重	ソ：食後
イ：増大	ケ：可視化	タ：不衛生
ウ：高価	コ：農場の入口	チ：入浴前
エ：入浴後	サ：自宅の玄関	ツ：就寝前
オ：低減	シ：食前	テ：作業前
カ：車のドア	ス：安価	ト：周知
キ：起床後	セ：作業後	

<回答例>

A：作業前（テ）、B：農場の入口（コ）、C：不衛生（タ）、D：低減（オ）

食品安全

問3：以下の事例において、想定される食品安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：出入口が1つしかないきゅうり出荷調整施設での作業】



- <回答例>・ ペット（動物）が収穫物に接触することによって、ペット（動物）に付着していた微生物が収穫物を汚染するおそれがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある。）
- ・ 出荷調整施設内に農薬が置かれていることによって、地震等の何らかの要因で農薬が転倒し収穫物を汚染するおそれがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある）。
 - ・ はさみ（器具）を決まった場所に整理していないことによって、何らかの要因で収穫物にはさみ（器具）が紛れ込むおそれがある（異物混入のおそれがある）。
 - ・ 出荷調整施設内に肥料を保管することによって、何らかの要因で肥料が収穫物に付着し汚染するおそれがある（異物が混入するおそれがある）。
 - ・ 出荷調整室内に廃棄物を放置していることによって、何らかの要因で収穫物に廃棄物が紛れ込むおそれがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある）。
 - ・ 出荷調整施設内の出入口付近に手洗い場が無いことによって、汚染された手で収穫物や器具等を触り汚染するおそれがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある）。
 - ・ 収穫物を床に直置きすることによって、床の汚れ等が収穫物に付着し汚染するおそれがある（異物が混入するおそれがある）。
 - ・ 出入口が開放されていることによって、第3者が立ち入り故意に農産物に異物を混入する恐れがある（生物が出入りし、有害生物の糞や虫が混入する恐れがある。）

食品安全

問4：以下の事例において、想定される食品安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

作業員Aは、体調が悪く原因不明の嘔吐が続いていたが、繁忙期なのでうがい・手洗いをよくして出荷作業に向かった。出荷調製施設では、毎回作業前に掃除をしているが、ネズミの糞や昆虫の死骸と思われる物がいつも落ちていた。施設の照明が一部切れて普段より暗くなっていたので、繁忙期が終わったら新しいものと交換し、万が一に破損しても破片が飛散しないようにフィルムで保護しようと考えている。作業中はマスクと作物や人体に悪影響の無い使い捨ての手袋をしているが、作業台付近で飲食している作業員もいた。

- <回答例>・ 病原菌に感染している作業員Aが収穫物・器具・施設に触れることによって汚染され、当該収穫物等に触れた他の作業員等が同じ病原菌に感染するおそれがある。
- ・ 作業台付近で飲食したことによって、作業台に付着した食べ物の残渣を指摘して集出荷施設内に侵入した動物・昆虫などが収穫物に触れて汚染する恐れがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある）。
 - ・ 照明の明るさが十分でないことによって、収穫物に付着していた異物や汚染物質に気づかないまま出荷するおそれがある。（異物混入のおそれがある）。
 - ・ 照明がフィルムで保護されていないことによって、照明が破損した際に、破片が作物に付着する恐れがある（異物混入のおそれがある）。
 - ・ 作業員が出荷調制作業中の作物周辺で飲食することによって、食品残渣や飛沫となった唾液を介して微生物が収穫物を汚染するおそれがある（人体に悪影響を及ぼすおそれがある）。

環境保全

問5：次のうち、環境保全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：圃場の面積	ケ：湿度
イ：土づくり	コ：廃棄物の分別
ウ：施肥設計	サ：作業者の服装
エ：省エネルギー化	シ：燃料の保管場所と保管方法
オ：農薬の散布方法	ス：農薬散布機の洗浄場所
カ：廃棄物の処分方法	セ：作業者の昼食場所
キ：圃場周辺に分布する生物の種類及び個体数	ソ：堆肥置き場
ク：IPM	タ：農機具保管庫

<回答例>

該当するもの：土づくり（イ）、施肥設計（ウ）、省エネルギー化（エ）、
農薬の散布方法（オ）、廃棄物の処分方法（カ）、
圃場周辺に分布する生物の種類及び個体数（キ）、**IPM（ク）**、廃棄物の分別（コ）、
燃料の保管場所と保管方法（シ）、農薬散布機の洗浄場所（ス）、堆肥置き場（ソ）、
該当しないもの：圃場の面積（ア）、湿度（ケ）、作業者の服装（サ）、作業者の昼食場所（セ）、
農機具保管庫（タ）

環境保全

問6：環境保全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文書1】

環境保全に関するリスクには、間接的なものと直接的なものがある。特に間接的なものは、時間をかけて環境に悪影響を与える場合があり、農業と環境保全は切り離せない関係にある。

例えば、作物の収穫量を上げるためには、肥料等を施用し作物に十分な栄養分を与える必要があるが、必要以上に施用すると作物が窒素やリンなどの栄養分を吸収しきれず（A）に残り、地下水や河川に流れ込み環境に悪影響を引き起こしかねない。

この場合、あらかじめ土壌診断を行い、土の状況を把握した上で、栽培する作物に応じた適切な（B）を行うことが重要である。

このように、間接的なリスクは、影響がすぐには発現しないものの、長期的な視野に立てば、広範囲に影響を及ぼしかねず、適正なリスク管理が必要となる。

【解説文章2】

一方、直接的なリスクとしては、散布した農薬が周辺住民の住居まで飛散し洗濯物等を（C）するなどが挙げられる。

この場合、（果樹の場合）スピードスプレイヤーのノズルを飛散防止対策が施されたものに取り替える、事前に農薬散布の日時を周辺住民に連絡し、当該時間帯の洗濯の外干しを控える等の対策をお願いするなどの対処方法が考えられる。

また、もっと広範囲な対策として、IPM（総合的病害虫管理）の考えのもと、農薬散布以外の病害虫対策（（D）の導入、土着天敵の活用等）を講じることで、原因の根幹である、農薬の使用量、使用回数を削減するという方法も考えられる。

このように、思考範囲を狭めず、農業全体の中で対策を考え、実行に移すことが、GAPでは重要と言える。

<選択肢>

ア：漂白	カ：花卉	サ：祈念式
イ：抵抗性品種	キ：着色	シ：人体
ウ：空気中	ク：種まき	ス：汚染
エ：土づくり	ケ：土壌	セ：種子の選定
オ：ガスバーナー	コ：乾燥	ソ：栽培計画

<回答例>

A：土壌（ケ）、B：土づくり（エ）、C：汚染（ス）、D：抵抗性品種（イ）

環境保全

問 7：以下の事例において、想定される環境保全に係る危害要因を具体的に 2 つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：農場隣接地の風景】



- <回答例>・ 廃棄物（農薬、農薬の空き瓶、缶、瓶、ペットボトル、カセットボンベ）が散乱していることによって、有害な物質が流出・流入し、作物、人体、動植物、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
- ・ 廃棄物が適切に処理されていないことによって、法令を違反するおそれがある。
 - ・ 廃棄物の焼却によって、有害な物質が流出・流入し、作物、人体、動植物、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 圃場に放置されていた農薬の瓶から農薬が流出することによって、作物、人体、動物、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 食品残渣、食品廃棄物等が圃場内に放置されていることによって、それらに誘引された鳥獣が作物に被害を及ぼすおそれがある。

環境保全

問 8：以下の事例において、想定される環境保全に係る危害要因を具体的に 2 つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

作物の生育が例年より悪いと思ったので、昨期と同じ肥料を昨期より多めに施肥した。ついでに昨期と同じ農薬を昨期と同量散布した。風下の住宅には、散布する直前にこれから散布することを伝えていた。余った農薬の希釈液は最寄りの排水溝に流し、肥料の空袋は除草した草とともに圃場の隅で焼却した。

- <回答例>・ 肥料の施肥量を闇雲に増やすことによって、土壌バランスを崩すおそれがある。
- ・ 土壌分析をしないことによって、不足した成分を適切に補えない（不必要な成分を過剰に投与する）おそれがある。
 - ・ 病虫害発生情報、栽培面積、天候等を踏まえないことによって、農薬を必要以上に散布し、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 農薬散布の実施について、伝えたのが直前であること（風下の住宅にしか伝えなかったこと）によって、（風下以外の住宅の）ドリフト対策が間に合わず、飛散した農薬が、人体、植物、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 廃棄物の不適切な焼却によって、人体、植物、環境に悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 最寄りの排水溝に流した農薬が河川に合流すること、によって、河川を汚染するおそれがある。

労働安全

問9：次のうち、労働安全に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：道路交通法	サ：トラクターの安全フレーム
イ：作業時の服装	シ：軽トラの台数
ウ：作業者の体調	ス：健康診断の実施
エ：作業者の趣味	セ：危険箇所の表示
オ：作業者の熟練度	ソ：救急箱の有無
カ：作業者の性格	タ：救急箱の製造元
キ：機械の点検頻度	チ：労災保険への加入
ク：機械の耐用年数	ツ：作業者の昼食場所の環境
ケ：機械の価格	テ：高所作業
コ：機械の使用条件	

<回答例>

該当するもの：道路交通法（ア）、作業時の服装（イ）、作業者の体調（ウ）、
 作業者の熟練度（オ）、機械の点検頻度（キ）、機械の耐用年数（ク）、
 機械の使用条件（コ）、トラクターの安全フレーム（サ）、健康診断の実施（ス）、
 危険箇所の表示（セ）、救急箱の有無（ソ）、労災保険への加入（チ）、
 高所作業（テ）

該当しないもの：作業者の趣味（エ）、作業者の性格（カ）、機械の価格（ケ）、
 軽トラの台数（シ）、救急箱の製造元（タ）、作業者の昼食場所の環境（ツ）

労働安全

問 10: 労働安全に関するリスクについて解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

労働安全に関するリスクとして、例えば、農作業機械を起因とした農作業事故のリスクが考えられる。

具体例としては、①急な斜面を走行したこと等によりトラクターが転倒した際に、トラクターの安全フレームが外されていたことによる事故。②機械が整備不良で誤作動を起こしたことによる事故。③機械に生じた詰まりの解消を適切な手順で行わなかったことによる事故。などが考えられる。

この場合、①については、トラクターの安全フレームは邪魔だと感じても作業者の判断で外さない。もともと安全フレームがない車種であれば、(A) などについてあらかじめルールを定める。②については、機械の(B) や使用開始前の点検を着実に実施、③については、(C) を熟読し正しい手順で行うなどの対処方法が考えられる。

なお、対策の理由を理解せず、また、作業者が手間だと感じてしまうと取組が定着しないため、例えば、①については、なぜトラクターに安全フレームがあるのか等の安全に関する講習会を開催する、②③について、(D) の近くに定期点検や発生頻度の高いトラブルへの対処方法を掲示しておき、作業者が作業前に簡単に内容を確認できるようにしておくなどが考えられる。

このように、単に対策を設けるだけでなく、まず、対策の必要性を作業者に理解してもらうとともに、対策を作業者に負担と感じさせない工夫をこらすことが、GAP の取組を継続していくために重要と言える。

<選択肢>

ア：機械の保管場所	カ：耐久性	サ：事故防止の祈願
イ：ロコミ	キ：寝室	シ：転倒時の対策
ウ：事故時の覚悟	ク：走行可能な範囲	ス：定期点検
エ：デザイン	ケ：取扱説明書	セ：虫の知らせがあった場所
オ：限界性能	コ：休憩所	ソ：パンフレット

<回答例>

A：走行可能な範囲（ク）、B：定期点検（ス）、C：取扱説明書（ケ）、
D：機械の保管場所（ア）

労働安全

問 11：以下の事例において、想定される労働安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【イラスト事例：圃場周囲の草刈り作業】



- (回答例)・ 防護対策が不十分（防護メガネや手袋の非着用、服装が半袖）な状態で刈り払い機を使用することによって、刈り払い機に接触してはねた石や枝等により怪我をするおそれがある。
- ・ 草刈り機作業を始める前に石を取り除いていないことによって、草刈り機の刃に当たってはねた石が人に当たった場合、怪我をするおそれがある。
 - ・ 気温が高い時間帯に草刈り作業を行うことによって、熱射病を煩うおそれがある。
 - ・ 刈り払い機で作業を行っている者の後ろ人がいることによって、声を掛けられて振り向いたり、刈り払い機の操作を誤ったりして怪我をするおそれがある。
 - ・ 保管中の刈り払い機の刃にカバーがされていないことによって、刈り払い機の転倒等によって人体が刃に接触し怪我をするおそれがある。
 - ・ トラクターに安全フレームがついていないことにより、トラクター転倒時に下敷きになった場合、怪我をするおそれがある。

労働安全

問 12: 以下の事例において、想定される労働安全に係る危害要因を具体的に2つ記載してください。なお、回答は、次の形式で記述すること。「〇〇によって、△△するおそれがある。」

【文章による事例】

刈り払い機で除草作業を行っている従業員 A に、これから農薬散布を始めることを伝えるために後ろから声をかけた。従業員 A は農薬散布を手伝うために刈り払い機のエンジンを切らずに一旦その場に置いた。農薬を散布するときはいつも革手袋と防護マスクをつけているが、作業中の気温が高くなってきたので、腕まくりをして散布した。散布後にも他の作業が多く残っていたので、従業員 B とともに休憩せずに、農機具・農業機械の整備を始めた。従業員 B は先週から雇用したばかりだが、本人の希望が強かったので、農作業安全の責任者とした。従業員 B が農機具の点検をしたところ、一部の農機具が見つからなかったり、一部が故障した農業機械があったりしたが、お金もなかったのものでそのままにした。

- (回答例)・ 刈り払い機で作業を行っている者から後ろから声を掛けられることによって、振り向いたり、刈り払い機の操作を誤ったりして怪我をするおそれがある。
- ・ 刈り払い機のエンジンを切らずに置くことによって、その刈り払い機に他者が接触し、怪我をするおそれがある。
 - ・ 腕まくりをして農薬散布すること（適切な装備の着用を怠ること）によって、農薬が皮膚に付着して人体へ悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 休憩せずに働くことによって、熱中症・過労・脱水症状を引き起こし、人体へ悪影響を及ぼすおそれがある。
 - ・ 十分な経験や訓練がない者を責任者にするによって、事故が発生した場合の対処が適切に行えず怪我をするおそれがある。
 - ・ 故障した農業機械を使用することによって、誤作動を起こし怪我をするおそれがある。

人権保護

問 13: 次のうち、人権保護に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：労働条件の通知	キ：住み込み従業員の住居環境
イ：近隣のレジャースポットの紹介	ク：従業員の私物
ウ：マニュアル・標示等に用いる言語	ケ：従業員の国籍・宗教
エ：従業員の身長・体重	コ：従業員の余暇の過ごし方
オ：有給休暇制度	サ：従業員が身につけている言語
カ：標準勤務時間の設定	

<回答例>

該当するもの：労働条件の通知（ア）、マニュアル・標示等に用いる言語（ウ）、
有給休暇制度（オ）、標準勤務時間の設定（カ）、
住み込み従業員の住居環境（キ）、従業員の国籍・宗教（ケ）、
従業員が身につけている言語（サ）

該当しないもの：近隣のレジャースポットの紹介（イ）、従業員の身長・体重（エ）、
従業員の私物（ク）、従業員の余暇の過ごし方（コ）

人権保護

問 14: 人権保護について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

近年、働き方改革が提唱される中、農業においても、雇用環境等を見直す動き、もっと広義に言えば、人権保護を意識する動きが強まっている。

人権保護の第一歩は、1日の勤務時間や、雇用期間、福利厚生などの雇用条件を明確にし、(A)の雇用時に(B)で通知することである。(B)で通知されることで、雇用条件が明文化され、雇用者の拠り所ともなる。労働時間等の一部の例外はあるものの、基本的には農業に従事する(A)にも、労働基準法が適用されることを忘れてはならない。

次に、使用者と(A)との間で、労働条件や労働環境、労働安全等について定期的にコミュニケーションを図ることは、(A)の意見を(C)し、より良い職場環境の構築にも必要な要素である。

また、作業を行う者に配慮した農場環境の整備が上げられる。例えば、近年、農業にも外国人技能実習生などの外国人労働者が増加の傾向にあるが、母国語が日本語ではない者の農作業に支障が生じないように、標識やマニュアルについて、①複数言語を併記する、②(D)などの配慮が必要となる。当然のことながら、国籍や宗教、性別などで差別してはならない。

このように、人権にも配慮して農業を行うことが、農業への人材定着につながるものであり、GAPが求める持続可能性の確保につながるものである。

<選択肢>

ア：口頭	カ：周辺住民	サ：感覚で指導する
イ：吹聴	キ：反映	シ：労働者
ウ：電話	ク：従事させない	ス：イラストで解説する
エ：無視	ケ：自主性に任せる	セ：雇用主
オ：書面	コ：盗用	ソ：フィーリング

<回答例>

A：労働者（シ）、B：書面（オ）、C：反映（キ）、D：イラストで解説する（ス）

農場経営管理

問 15: 次のうち、農場経営管理に関するものとして意識しないといけないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：責任者の配置	ケ：作業者の生活習慣の把握
イ：ブログの開設	コ：観光農園化
ウ：マニュアルの作成	サ：通信販売
エ：栽培計画の策定	シ：クレーム対応の記録
オ：ツイッターへの投稿	ス：マニュアルの見直し
カ：教育訓練の実施	セ：近隣のレジャースポットの場所
キ：作物の仕様の明確化	ソ：近隣の小売店の場所
ク：クレーム対応の手順	タ：PDCA サイクル

<回答例>

該当するもの：責任者の配置（ア）、マニュアルの作成（ウ）、栽培計画の策定（エ）、
教育訓練の実施（カ）、作物の仕様の明確化（キ）、クレーム対応の手順（ク）、
クレーム対応の記録（シ）、マニュアルの見直し（ス）、PDCA サイクル（タ）

該当しないもの：ブログの開設（イ）、ツイッターへの投稿（オ）、
作業者の生活習慣の把握（ケ）、観光農園化（コ）、通信販売（サ）、
近隣のレジャースポットの場所（セ）、近隣の小売店の場所（ソ）

農場経営管理

問 16：農場経営管理について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を下記選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文章】

農場経営管理は、「農業者」を「農業経営者」とするために欠かせない GAP の取組である。

まず、農場運営の方針と目的を定めることが必要である。それを従業員に周知することにより、経営者と従業員が共通した方針・目的に向かって、業務に取り組めるようになる。

次に、(A) を配置し、農場内の体制を確立することである。農場管理（農薬管理、施肥管理等）ごとに (A) を配置することで、農場管理における責任の所在が明確になるとともに、経営者以外の従業員を (A) に任命することで、当該従業員に裁量が与えられ、自主性の向上が期待される。

また、農場の具体的な運営ルールや、生産工程ごとに想定されるリスクとその対処方法を整理し、農場管理マニュアルにまとめることである。マニュアルにすることで、ルールやリスクが見える化でき、農場内で共有を図れるとともに、マニュアルに基づく農業経営を行うことで、従業員ごとの対応のばらつきを少なくし、(B) な対応が可能となる。

さらに、従業員が農場で支障なく働けるよう、定期的な (C) を実施することも重要である。農場管理マニュアルに基づく教育に加えて、安全講習・救命講習の受講、新ルールを設けた場合の周知徹底等を定期的に行うことで、従業員は常に最新の知識を得た状態で、業務を遂行できるようになる。

なお、農場管理マニュアルや (C) の内容等については、定期的に (D) を行い、常に実情に応じた見直しを行うことが重要である。

このように、農産物の生産のみならず、農業における経営の観点を意識することが、GAP の取組を通じた経営改善の第一歩である。

<選択肢>

ア：評論会	カ：レクリエーション	サ：責任者
イ：アドバイザー	キ：自己点検	シ：電話
ウ：散発的	ク：情報発信	ス：朝礼
エ：反省会	ケ：評論家	セ：教育訓練
オ：組織的	コ：応急措置的	ソ：廃止

<回答例>

A：責任者（サ）、B：組織的（オ）、C：教育訓練（セ）、D：自己点検（キ）

その他

問 17：時系列に沿って並べている次に掲げる項目のうち、GAP でカバーする範囲に含まれないものを全て選んでください。

<選択肢>

ア：運営計画策定工程（運営方針の策定等）	エ：栽培工程	キ：加工工程
イ：運営準備工程（栽培作物の決定、従業員の雇用）	オ：収穫工程	ク：宣伝工程
ウ：調達工程（種子、農業資材等の購入）	カ：出荷工程	ケ：販売工程

<回答例>

GAP でカバーする範囲に含まれないもの

キ：加工工程、ク：宣伝工程、ケ：販売工程

【解説】 GAP は、生産から出荷までの生産工程を管理するもので、出荷して相手方に引き渡した時点で、GAP のカバー範囲は終わります。なお、出荷までの工程にで加工が含まれる場合（お茶の荒茶過程、米の精米過程）には、加工工程も GAP のカバー範囲に含まれることになります。

その他

問 18：次に掲げる項目のうち、GAP の考え方とそぐわないものを全て選んでください。

<選択肢>

- ア：栽培計画に基づき栽培品種を変更した
- イ：農薬の種類を作業員の好みで勝手に変更した
- ウ：GAP に取り組んでいることを、GAP 認証を取得して取引相手（小売業者）に示した
- エ：出荷調製（調整）作業をしながら喫煙した
- オ：半袖で農薬を散布した
- カ：草刈り前に石拾いをした
- キ：廃棄物を全て焼却処分した
- ク：過去 2 年間、残留農薬が検出されなかったため、もう大丈夫だろうと考え、残留農薬検査を行うことを止めた
- ケ：農薬を散布する前に周辺の住民に周知した

<回答例>

GAP の考え方とそぐわないもの

- イ：農薬の種類を作業員の好みで勝手に変更した
- エ：出荷調製（調整）作業をしながら喫煙した
- オ：半袖で農薬を散布した
- キ：廃棄物を全て焼却処分した
- ク：過去 2 年間、残留農薬が検出されなかったため、もう大丈夫だろうと考え、残留農薬検査を行うことを止めた

その他

問 19 : GAP の考え方と照らし合わせ、GAP の取組のゴールとして最も適切なものを 1 つ選んでください。

<選択肢>

- ア：農場の運営体制の中で農場管理ごとの責任者を決めた時
- イ：農場内を整理整頓した時
- ウ：農業生産活動に関するリスクと対策を一通り整理した時
- エ：GAP 認証を取得した時
- オ：GAP 認証を更新した時
- カ：GAP の取組を 10 年間継続した時
- キ：GAP の取組にゴールはない

<回答例>

キ：GAP の取組にゴールはない。

【解説】GAP とは農場管理を継続的に改善する取組である。ここを改善したら終わり、というものはなく、農業を営む限り、常により良い方法を考え、取り入れていくものであることから、GAP の取組にゴールはない。）

その他

問 20：GAP に取り組むに当たっては、農場内の整理整頓及び生産履歴（農薬の散布記録、栽培記録等）の記帳が着目されるが、これらの取組が必要となる理由として適当と考えられるものを全て選んでください。

＜選択肢①：農場内の整理整頓＞

- ア：動線が確保され、交差汚染のリスク低減につながる
- イ：資材の現物確認が容易になり、不良在庫の削減につながる
- ウ：片付けしたという自己満足に浸ることができる
- エ：置き場所が明確になり、紛失防止につながる
- オ：資材倒壊や資材との接触による転倒等の事故の防止につながる
- カ：適切な場所に資材を置くことで、劣化や損傷を最小限に抑えることができる。
- キ：掃除がしやすくなり、倉庫や施設を衛生的に保ちやすくなる
- ク：売上げが増える

＜選択肢②：生産履歴（農薬の散布記録、栽培記録等）の記帳＞

- ア：出荷した農産物の栽培から出荷までの経過を追跡できる
- イ：記帳したことを周囲に自慢できる
- ウ：過去の生産実績を踏まえた栽培計画を立案できる
- エ：過去の記録を踏まえた資材購入・使用計画を立案できる
- オ：記帳したデータを基に作目ごとの生産量等を客観的に比較できる
- カ：農場の資産価値が上がる
- キ：使用された農薬の種類や量、収穫時期等の作物の履歴を第三者に示すことができる
- ク：生産履歴をまとめたものを本として出版できるようになる

＜回答例＞

選択肢①

- ア：動線が確保され、交差汚染のリスク低減につながる
- イ：資材の現物確認が容易になり、不良在庫の削減につながる
- エ：置き場所が明確になり、紛失防止につながる
- オ：資材倒壊や資材との接触による転倒等の事故の防止につながる
- カ：適切な場所に資材を置くことで、劣化や損傷を最小限に抑えることができる。
- キ：掃除がしやすくなり、倉庫や施設を衛生的に保ちやすくなる

選択肢②

- ア：出荷した農産物の栽培から出荷までの経過を追跡できる。
- ウ：過去の生産実績を踏まえた栽培計画を立案できる。
- エ：過去の記録を踏まえた資材購入・使用計画を立案できる。
- オ：記帳したデータを基に作目ごとの生産量等を客観的に比較できる。
- キ：使用された農薬の種類や量、収穫時期等の作物の履歴を第三者に示すことができる。

問 21：GAP 認証について解説した以下の文章について、A～Dに入る適切な文言を書き選択肢の中からそれぞれ1つ選んでください。

【解説文書】

農林水産省では、GAPを「GAPをする（農業者がGAPに取り組むこと）」と「GAP認証をとる（農業者がGAP認証を取得すること）」に分けて推進しており、「GAP認証をとる」については（ A ）としている。

GAP認証とは、農業者が行うGAPの取組を第3者の審査機関が確認し、客観的に証明する民間の認証制度で、日本では主にGLOBALG.A.P.、（ B ）及びJGAPの3種類が普及している。

GLOBALG.A.P.は欧州発祥、（ B ）及びJGAPは日本発祥、GLOBALG.A.P.と（ B ）は、GFSI（世界食品安全イニシアティブ）※の承認規格であるなどの違いがあるが、この3種類は、いずれも食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野に関する取組内容を含んだ（ C ）である。

これらのGAP認証の取得・継続には、定期的（1年に1回）に審査を受ける必要があり、その都度、審査費用の負担が発生する。費用負担を避けることはできないが、GAP認証には、個人で取得する個別認証とJAの部会単位等で取得する（ D ）認証があり、（ D ）認証であれば、所属する農業者数が多いほど1人あたりの負担を軽減できる。これは、（ D ）認証では、（ D ）の事務局が定期的に所属する農業者の取組状況を内部監査するため、審査会社が行う農場の審査が抽出審査になるからである。

なお、どのGAP認証をいつ取得するかは、（ A ）による。例えば、流通業者などの取引先からGAP認証取得の要請があった場合には、取引先が指定するGAP認証を取得すればいい。

このように、GAPに取り組む者が必ず認証を取得する必要があるわけではないが、HACCPの義務化等もあって、GAP認証を求める動きが広がる中、必要となった時に速やかにGAP認証を取得できるよう、常日頃から（ C ）に取り組んでいることが重要である。

※GFSI（世界食品安全イニシアティブ）とは

正式名称は The Global Food Safety Initiative。カーギルをはじめとした世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

<選択肢>

ア：Canada GAP	カ：補助金の支援水準	サ：政府の判断
イ：寄り合い	キ：完全無欠な GAP	シ：SQF
ウ：農業者の経営判断	ク：部会	ス：団体
エ：JA 公認の GAP	ケ：JA からの指示	セ：国際水準の GAP
オ：都道府県 GAP	コ：ASIAGAP	ソ：組織

<回答例>

A：農業者の経営判断（ウ）、B：ASIAGAP（コ）、C：国際水準の GAP（セ）、D：団体（ス）、

GAP理解度テスト 回答例の解説(例示・補足)

問1 食品安全

【該当するもの】	解説(例示)
食品衛生法(ア)	食品安全に関する法律。衛生管理等にあたってはこの法律を遵守することが必要。
農薬の種類(ウ)	作物に対応した農薬を選ばないと、作物に農薬が残留するリスク等が考えられる。
農薬の使用量(エ)	定められた使用量を遵守しないと、作物に農薬が残留するリスク等が考えられる。
農薬の散布方法(カ)	散布した農薬が飛散して、他の作物に付着し農薬が残留するリスク等が考えられる。
農業用水の水源(キ)	汚染した水源を使用することで、農産物を汚染するリスク等が考えられる。
収穫物搬送の動線(サ)	動線途上に農薬置き場や農薬散布中のほ場があること等による、交差汚染のリスク等が考えられる。
集出荷施設の照明器具(シ)	照明器具が破損した場合に、破片が出荷農産物に紛れる異物混入のリスク等が考えられる。
梱包資材の材質(ス)	人体に有害な材質の梱包資材を使用した場合に、成分が農産物に付着し汚染するリスク等が考えられる。
梱包作業時の服装(ソ)	農薬散布時に着用した服装のまま出荷梱包作業を行うことで、農薬が農産物に付着するリスク等が考えられる。
ペット・野生動物の侵入経路(チ)	保管中の農産物等に野生動物が接触し、微生物等で農産物を汚染するリスク等が考えられる。
トイレの衛生環境(ツ)、	トイレの衛生環境が劣悪なことで、利用者を介して大腸菌等が農産物に付着し汚染するリスク等が考えられる。
作業者の休憩場所の衛生環境(テ)	作業者の休憩場所の衛生環境が不十分なこと作業者を介して病原菌等が農産物に付着し汚染するリスクや、休憩場所での飲食により作業者に付着した食べかすやお菓子の袋などが出荷時に混入するリスク等が考えられる。
【該当しないもの】:	解説(例示)
圃場の面積(イ)	圃場の広さは、食品安全に影響を与えない。
農薬の価格(オ)	農薬の価格は、食品安全に影響を与えない。
水道料金(ク)	水道料金は、食品安全に影響を与えない。
水やりの回数(ケ)	水やりの回数は、作物の生育に影響する恐れはあるが、食品安全には影響を与えない。
燃料の使用量(コ)	燃料の使用量は、食品安全に影響を与えない。
機械の製造元(セ)	影響を与えるのは、機械の材質や構造であり、機械の製造元は食品安全に影響を与えない。
廃棄物量(タ)	廃棄物の量が多い、少ないは、食品安全に影響を与えない。
日の出・日の入りの時間(ト)	日の出・日の入りの時間は、食品安全に影響を与えない。

問5 環境保全

【該当するもの】	解説(例示)
土づくり(イ)	土づくりは、圃場の土壌特性を把握し、持続的な土地利用をしていくために重要。
施肥設計(ウ)	肥料・堆肥の施用過多は土に栄養分が残り環境にも悪影響を与える。作物に応じた施肥設計を行うことが重要。
省エネルギー化(エ)	エネルギーの使用量を抑え、二酸化炭素の排出量を抑制することは、地球温暖化防止の観点からも重要。
農薬の散布方法(オ)	散布した農薬が農業用水等まで飛散し、水環境を汚染するリスク等が考えられる。
廃棄物の処分方法(カ)	廃棄物を野焼きすることで、有毒ガスが発生し大気環境を汚染するリスク等が考えられる。
圃場周辺に分布する生物の種類及び個体数(キ)	生物多様性の保全には、圃場周辺の生物の種類や個体数を意識することが重要。
IPM(ク)	抵抗性品種の導入、土着天敵の活用等の総合的病害虫管理を行うことで、農薬の使用量を減らすことができ、環境保全に効果がある。
廃棄物の分別(コ)	廃棄物の分別は、資源の再利用による廃棄物量の削減につながるものであり、重要。
燃料の保管場所と保管方法(シ)	燃料の保管が不適切で、燃料が漏れ出し周辺環境を汚染するリスク等が考えられる。
農薬散布機の洗浄場所(ス)	農業用水路の近くで農薬散布機を洗浄した場合、洗浄時の廃液が農業用水路に流れ込み水環境を汚染するリスク等が考えられる。
堆肥置き場(ソ)	発酵途中の堆肥が周辺土壌に流出することで病原微生物等が殺滅されず、土壌を汚染するリスクや、堆肥の栄養分が河川や地下水流出し汚染するリスク等が考えられる。
【該当しないもの】	解説(例示)
圃場の面積(ア)	圃場の広さは、環境保全に影響を与えない。
湿度(ケ)	湿度は、環境保全に影響を与えない。
作業者の服装(サ)	作業者の服装は、環境保全に影響を与えない。
作業者の昼食場所(セ)	作業者の昼食場所は、環境保全に影響を与えない。
農機具保管庫(タ)	農機具保管庫の状況は、環境保全に影響を与えない。

問9 労働安全

【該当するもの】	解説(例示)
道路交通法(ア)	公道を走行する場合は、トラクター等の農業用機械も道路交通法の対象となるため、道路交通法を意識しておくことが重要。
作業時の服装(イ)	刈り払い機を使用する際は肌の露出しない服装や保護メガネを着用する等、作業に応じた服装にすることが労働安全の確保に重要。
作業者の体調(ウ)	体調不良の者を作業に従事させることは、作業中のミスを誘発し事故に発展するリスク等が考えられる。
作業者の熟練度(オ)	熟練度の低い者を単独で作業に従事させることは、作業を失敗し、事故に発展するリスク等が考えられる。
機械の点検頻度(キ)	点検が不十分な機械を使用することは、機械が異常な動作をし、使用者を巻き込んだ事故に発展するリスク等が考えられる。
機械の耐用年数(ク)	耐用年数を過ぎた機械を使用することは、機械が異常な動作をし、使用者を巻き込んだ事故に発展するリスク等が考えられる。
機械の使用条件(コ)	機械の使用条件を度外視した使用をすることは、機械が異常な動作をし、使用者を巻き込んだ事故に発展するリスク等が考えられる。
トラクターの安全フレーム(サ)	トラクターに安全フレームがないと、トラクターの転倒時に、作業者がトラクターの下敷きになり、重傷を負うリスク等が考えられる。
健康診断の実施(ス)	定期的な健康診断の実施は、従業員の健康状態を把握するための重要な取組であり、労働安全の確保に欠かせないもの。
危険箇所の表示(セ)	地図上で危険箇所を示す、危険箇所の手前にその旨を記した看板を設置する等は、作業者の危険の回避に資するものであり、労働安全の確保に重要。
救急箱の有無(ソ)	作業中に怪我をした場合等に速やかに応急救置を行えるよう、作業場の近くに救急箱を準備しておくことが、労働安全の確保に重要。
労災保険への加入(チ)	農作業中に事故があった際に、当該事故で負傷した従業員の休業補償等を確保するため、労災保険に加入してることが、労働環境の観点から重要。
高所作業(ト)	高所作業の場合、転落時に備えてヘルメットの着用を義務付ける等の、労働安全上の配慮が必要。
【該当しないもの】	解説(例示)
作業者の趣味(エ)	作業者の趣味は、労働安全の確保に影響を与えない。
作業者の性格(カ)	作業者の性格は、労働安全の確保に影響を与えない。
機械の価格(ケ)	機械の価格は、労働安全の確保に影響を与えない。
軽トラの台数(シ)	軽トラの台数は、労働安全の確保に影響を与えない。
救急箱の製造元(タ)	救急箱の用意は重要だが、救急箱の製造元は労働安全の確保に影響を与えない。
作業者の昼食場所の環境(ツ)	作業者の昼食場所の環境が、作業者の意欲には影響を与えるかもしれないが、労働安全の確保に影響は与えない。

問13 人権保護

【該当するもの】	解説(例示)
労働条件の通知(ア)	労働条件の通知は、雇用者に対し労働条件を明示する行為であり、極めて重要。
マニュアル・標示等に用いる言語(ウ)、	マニュアル・標示等では、作業者が内容を理解できる言語を用いることが、作業者への配慮の観点から重要。
有給休暇制度(オ)	雇用者には、勤続年数等に応じた適切な有給休暇を設けることが必要。
標準勤務時間の設定(カ)	過重な勤務条件とならないよう、適切な標準勤務時間を設定することが必要。
住み込み従業員の住居環境(キ)	住み込み従業員の住居環境を軽視することは、従業員の人権を尊重していないことにつながる。
従業員の国籍・宗教(ケ)	国籍や宗教によっては独自の風習・習慣等があることから、従業員の国籍・宗教を意識し、風習・習慣等の実施に配慮することが必要。
従業員が身につけている言語(サ)	従業員が身につけている言語を把握し、従業員が理解できるよう配慮して対応することが必要。
【該当しないもの】	解説(例示)
近隣のレジャースポットの紹介(イ)	近隣のレジャースポットを紹介することは、従業員の励みになるかもしれないが、人権保護とは関係ない。
従業員の身長・体重(エ)	従業員の身長・体重は、職員の私的情報であり、人権保護として意識するものではない(意識して、恣意的な対応をとることは、差別につながるかねない。)
従業員の私物(ク)	従業員の私物は、個人のプライベートに関することであり、人権保護として意識するものではない。
従業員の余暇の過ごし方(コ)	従業員の余暇の過ごし方は、個人のプライベートに関することであり、人権保護として意識するものではない。

問15 農場経営管理

【該当するもの】	解説(例示)
責任者の配置(ア)	責任者の配置は、農場管理(農業管理、施肥管理等)ごとにおける責任の明確化につながるものであり、経営管理上重要。
マニュアルの作成(ウ)	マニュアルの作成は、農場運営の仕組み・方法を明確にするものであり、点検による運営の見直しや後継者への経営引き継ぎ等に必要。
栽培計画の策定(エ)	農場経営に当たっては、作物の特性や販売のニーズ等を踏まえた栽培計画を策定し、計画的に運営していくことが重要。
教育訓練の実施(カ)	教育訓練の実施は、作業者の技術力向上や救命方法等の専門知識の習得に資するものであり、農場経営において重要。
作物の仕様の明確化(キ)	農場経営に当たっては、用途(生食、加工等)や販路(直売、加工品の原料として出荷等)を踏まえ、作物に求める仕様を明確化し、仕様に応じた栽培方法を取り入れることが重要。
クレーム対応の手順(ク)	クレーム対応の手順を定めておくことで、クレームがあった場合に的確な対応ができるため、経営に与える影響を最小限に抑えることが可能。
クレーム対応の記録(シ)	クレーム対応を記録に残しておくことで、対応の問題点やクレームの原因を分析し、改善につなげることが可能。
マニュアルの見直し(ス)	マニュアルは、作成して終わりではなく、状況の変化やマニュアルに基づき農場運営を行った結果判明した問題点を踏まえ、定期的に見直しを行い、継続的に改善していくことが重要。
PDCAサイクル(タ)	GAPとは、持続的な改善活動の取組であり、農業生産の中で問題点を見つけたら、必要な対策を考え(P)、それを実行し(D)、その内容を記録・点検・評価し(C)、継続的に改善をしていく(A)ことが重要。
【該当しないもの】	解説(例示)
ブログの開設(イ)	ブログの開設等の広報活動は、経営上必要な活動ではあるが、生産に関わるものではなく、農場経営管理には該当しない。
ツイッターへの投稿(オ)	ツイッターへの投稿等の広報活動は、経営上必要な活動ではあるが、生産に関わるものではなく、農場経営管理には該当しない。
作業者の生活習慣の把握(ケ)	作業者の生活習慣を把握することは、作業者個人の管理であり、農場経営管理には該当しない。
観光農園化(コ)	観光農園化は、経営戦略上の手法であり、生産に関わるものではなく、農場経営管理には該当しない。
通信販売(サ)	通信販売は、経営戦略上の手法であり、生産に関わるものではなく、農場経営管理には該当しない。
近隣のレジャースポットの場所(セ)	近隣のレジャースポットの場所が、農場経営管理に影響するものではない。
近隣の小売店の場所(ソ)	近隣の小売店の場所が、農場経営管理に影響するものではない。

問18 その他

【GAPの考え方にそったもの】	解説(例示)
ア:栽培計画に基づき栽培品種を変更した	計画に基づく対応でありGAPの考え方に沿っている。
ウ:GAPに取り組んでいることを、GAP認証を取得して取引相手(小売業者)に示した	GAP認証とは、GAPの取組を第3者が証明したものであり、取引相手に示す手法として適切。
カ:草刈り前に石拾いをした	刈り払い機を使用する際に懸念されるリスクに対応するための行動であり、GAPの考え方に沿っている。
ケ:農薬を散布する前に周辺の住民に周知した	周辺へのドリフト被害のリスクに対応するための行動であり、GAPの考え方に沿っている。
【GAPの考え方にそぐわないもの】	解説(例示)
イ:農薬の種類を作業員の好みで勝手に変更した	GAPとは、記録等に基づき計画的に農業を行うものであり、根拠無く作業員の好みで変更することはGAPの考え方にそぐわない。
エ:出荷調製(調整)作業をしながら喫煙した	喫煙した際の灰が農産物に混入するリスクを生じさせるものであり、GAPの考え方にそぐわない。
オ:半袖で農薬を散布した	散布した農薬が人体に付着し悪影響を与えるリスクを生じさせるものであり、GAPの考え方にそぐわない。
キ:廃棄物を全て焼却処分した	廃棄物の中に焼却できないものや、焼却することで有毒ガスを発生させるものが混在している恐れがあるため、闇雲に全てを焼却処分することは、GAPの考え方にそぐわない。
ク:過去2年間、残留農薬が検出されなかったため、もう大丈夫だろうと考え、残留農薬検査を行うことを止めた	これまでに検出されなかったから今後も検出されないだろうというのは憶測であり、科学的な根拠に基づいたものでなく、GAPの考え方にそぐわない。

問20 その他

農場内の整理整頓

【適当と考えられるもの】	解説(補足)
ア: 動線が確保され、交差汚染のリスク低減につながる	整理整頓を行うことで、物の置き場所がはっきりするため、置き場所に応じた動線を設定できるようになる。
イ: 資材の現物確認が容易になり、不良在庫の削減につながる	整理整頓の過程で、現物を確認することになるため、在庫の有無や量が明らかとなる。
エ: 置き場所が明確になり、紛失防止につながる	整理整頓で置き場所を明確した後は、日頃から使用後はその置き場所に戻す習慣を身につけることが重要。
オ: 資材倒壊や資材との接触による転倒等の事故の防止につながる	整理整頓では、人の往来や空間等も考慮して、置き場所を決めることが重要。
カ: 適切な場所に資材を置くことで、劣化や損傷を最小限に抑えることができる。	整理整頓では、物の性質に応じた置き場所(乾燥しやすい物は湿気の多い場所に置く、重量のある物は低い場所に置く等)を考えることが重要。
キ: 掃除がしやすくなり、倉庫や施設を衛生的に保ちやすくなる	整理整頓されている場所では、移動スペースも確保されているため、掃除等が容易になる。
【適当ではないもの】	解説(補足)
ウ: 片付けしたという自己満足に浸ることができる	整理整頓の目的は、自己満足に浸るためではなく、整理整頓を通じて農業生産におけるリスクの低減を図るものである。
ク: 売上げが増える	整理整頓が、直ちに売上げの増加につながるものではない。

生産履歴(農薬の散布記録、栽培記録等)の記帳

【適当と考えられるもの】	解説(補足)
ア: 出荷した農産物の栽培から出荷までの経過を追跡できる	記録を辿ることで、出荷した農産物の播種日、農薬の散布日・種類、収穫日等を明らかにすることができる。
ウ: 過去の生産実績を踏まえた栽培計画を立案できる	例えば、特に生育の良かった農産物の生産履歴を参考に栽培計画を立案し、同様の生育効果を期待するといった手法が考えられる。
エ: 過去の記録を踏まえた資材購入・使用計画を立案できる	過去の農薬散布の記録や、購入した資材の情報が判るため、生育状況を踏まえ、資材の種類や量を変える等の検討が行える。
オ: 記帳したデータを基に作目ごとの生産量等を客観的に比較できる	比較を行うことで、例えば、特定の圃場のみ生産量が多かった場合に、原因を分析し、次年度の生産に生かすことができる。
キ: 使用された農薬の種類や量、収穫時期等の作物の履歴を第三者に示すことができる	取引先が求める基準を満たしていることを示す証拠となる。
【適当ではないもの】	解説(補足)
イ: 記帳したことを周囲に自慢できる	記帳は手段に過ぎず、記帳を元に行うかが重要。
カ: 農場の資産価値が上がる	生産履歴を記帳し、その情報を活用することで、将来的な収穫量の増加等は見込めるかもしれないが、記帳したことで農場の資産価値が上がるわけではない。
ク: 生産履歴をまとめたものを本として出版できるようになる	生産履歴の記帳は、本の出版を目的に行うものではない。